

2018 年度支部活動【中部支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 共催：名古屋大学国際機構国際言語センター
開催日：2018年10月21日（日）13:00～17:00
会場：名古屋大学国際棟
参加者：104名（会員51名・一般53名）

澄み渡った秋空の下、中部支部活動「日本語教育人材養成の現在とこれから」が開催されました。当日の参加者は定員を超える104名に上り、この話題に対する関心の高さがうかがえました。

まず、第1部の講演では、「日本社会と日本語教育の展望～政策的動向を踏まえて～」と題し、神吉宇一先生（武蔵野大学）から、主に日本語教育推進議員連盟による「日本語教育推進基本法（仮称）」、文化庁による「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」について話していただきました。

次の第2部のパネル・ディスカッションでは、「日本語教育人材の現在とこれから」と題し、近藤有美先生（名古屋外国語大学）からは大学における人材養成について、鈴木勝代先生（東海日本語ネットワーク）からは地域日本語教室における人材養成について、丸山茂樹先生（I.C.NAGOYA）からは日本語学校における人材養成について、そして、磯村美保子先生（名古屋YWCA）からは年少者日本語教育における人材養成について、それぞれの現場における現状と課題について話していただきました。その後、フロアでグループディスカッションを行い、質疑応答の時間を設けましたが、参加者同士、および参加者とパネリストとの活発なやり取りがありました。

そして、第3部の情報交換会では、「経験者の話を聞こう！」と題し、様々な現場で日本語教育に携わっている方々にブースを出していただきましたが、参加者と積極的に交流している様子が見られました。

参加者からは、様々な現場における話が聞けてよかった、中部地区の地域性も感じられ大変勉強になったといった声が多かったことから、当初の目的は達成できたと考えます。しかし、その一方で、時間が押してしまったために、パネリスト同士の質疑応答ができなかったことや、意見交換の時間が十分に取れなかったことに対するご意見もいただいたことから、次回に向けての課題も明らかになりました。今回いただいたご意見も参考にしながら、今後も地域に根差した人材養成のあり方を考える企画を検討していきたいと思っております。

（報告者：支部活動運営協力員 惟任将彦）



パネル・ディスカッションの様子



情報交換会の様子